

目 次

●聞き書き作品 2015

1. 近代建築モダニズムの系譜 4
語り手：内藤正克さん（小野市久保木町/（株）内藤設計相談役会長）
2. 酒米“山田錦”とともに 13
語り手：藤原 進さん（加東市松沢/東条山田錦振興会会長）

●聞き書き作品 2016

3. 雨乞い踊り“秋津西戸百石踊り”について 18
語り手：針木 功さん（加東市秋津/秋津西戸百石踊り保存会会長）
4. “ふれあい”と地域づくり 25
語り手：三村良三さん（加東市上福田/県民交流広場「三草ふれあい広場」事務局長）

●聞き書きプロジェクトに参加して 36

■参考：聞き書きプロジェクト参加者 40

近代建築モダニズムの系譜



●実施日

平成 28 年 (2016 年) 3 月 9 日

●語り手

内藤 正克さん (93 歳 : 小野市久保木町 / (株)内藤設計相談役会長)

分野 / 疏水流域の文化・建築の視点から

●聞き手

鈴木 朝道 (22 歳 : 神戸大学大学院生) ★

渡邊 幸太 (24 歳 : 兵庫教育大学大学院生)

1. 黒谷池を自費で作った先祖

最初に何でこんなところに住むようになったかということをやっと始めに簡単にお話ししましょうか。私とこの本家はね、東条川ありますね。東条川の向こう側に現在、加東市の旧福田村で東古瀬という町がある。昔は村やったけれどもね。東古瀬から6代前に、いわゆる文化7年1810年ですね。1810年にこちら久保木村へ分家してもらった。なぜ分家してもらったと言いますと、その本家はその当時は大地主で、まああの50丁ほど山やら水田をもっとった。田畑を。その50丁もっておったけれどそのうちの20丁がこの久保木地区にあったわけですね。

ところがいちいち橋渡って管理に来るのがかなんからということで、分家しようということで6代前に文化7年に久保木村に分家してもらった。それが本家は内藤治平正信いうて、農家やけどもまさのぶという名前を付けてもらって、そこから久保木村へ分家していわゆる管理と治水等について一任されたと、分家してもらった時にこちらへんは非常に水の利が悪かった。

川だけでね。それで何とか池を築かなあかんという事で、私んところで負担して築いたのが黒谷池。黒谷池を自費を出して作った。当時で黒谷池、銀180貫という記録がありますが、現在にして2億。それを全部負担して池をつくった。村にも使ってもらおう、村の水田に使ってということで寄付した。

これの記念碑があるんやけど、この碑を私が9年前に作ったんやけど、私が文面をつくって記念碑を建てた。これが黒谷池で、堤に記念碑がある。村人が感謝の気持ちでその時の当主と庄屋のふたりの礼のために、墓碑を建ててくれた。村に寄贈した。ところが昭和36年に大震災があって堤防がきれて、堤防を国が作ってくれた、そんなことで町にすればありがたかった。

2. 女系家族

私で6代になるんですけども、昔から内藤家は女系家族でおじいさんは、7人兄弟で男1人。私の母親は女ひとりだけ男なし。そしてうちの親父を養子にもらった、現代の西脇市の落方いうところ、昔の加西郡芳田村落方。今は合併してますけど、はじめは加東郡、その芳田村の津田いう家から、父は三男だったから養子にきてくれた。

父の時分は高等小学校がなかった。加西郡の第3高等学校。日吉の小学校の高等科まで行ったんですね。その高等科を卒業して、県立工業、現在の県工の建築家に入学した。県工の2回生です。この当時県工建築科を卒業して兵庫県の土木の建築課へ就職した。

現在県庁の前になくなってしまっているけれど、戦時中、庁舎の前の広いところに県立第2高等女学校を建てた。その現場に行きましたと話していました。その時分は職人の中にはヤクザがおったらしいので、現場管理に行く時は必ずピストルを持っていかされたと話していました。その時に県立の中学校やら女学校を設計したと。それからすぐ大正3年に内藤家に養子にきた。

ひとり娘の内藤トヨと結婚した。私の兄弟も4人女で、私は男1人。私の子どもも娘2人だけ。養子もらったわけですね。今の跡取り内藤五郎も和歌山から養子にもらった。女系家族で。その又娘も女ふたりで。上の子は結婚して下の子が神戸大学を出て東京の東畑（建築事務所）におります。女系家族ということだけ言っておきます。

3. 希少な設計事務所

設計事務所は、ところが当時は田舎ですから設計士ってなんですか？という時代ですからね。ほとんど建ててもん建てるんは大工が自分で板の上に書いて建てた時代でしたから。兵庫県では神戸に2軒ほどありましたね、設計事務所、姫路に1軒あったらしい。この辺はぜんぜんゼロやったです、設計事務所というのが非常に希

少価値で親父が言ってましたよ。設計を頼みに村長や町長が頼みに来られよった。設計してもらわなあかん。学校とか、今から順番を取ってきますからどないかしてほしい。半年先になりますよ。それでも結構ですと言うて、今とは違うそういう時代でしたな。だから親父自身は好きなように設計でけたと。親父が設計したのは当時、当然木造ですわね。ほとんどの建物が鉄筋に建て替わってますけども、残っているものもあります。

4. 現在も残る当時の建物～好古館

現在もね、西脇の小学校もあります。木造の、県の景観の建物に指定されてますけど、これを残す残さんで問題になってますけども、今現在は残そうという事に決まって来年くらいから大改修して残すということが決まっています。他の建物は規模が小さいですけども残ってますね、ほとんどが鉄筋化されて姿を消しております。後でまた上に事務所がありますので、一昨年、設計をはじめてちょうど100周年になったんで、100周年記念ということで小野の好古館、この好古館言いますのも昭和11年小野小学校の旧講堂を建てた建物が残ってた校舎は全部壊しましたけども、講堂だけ残してそれを好古館という名称で市の資料館にしております。平成2年にね、これが昭和11年に建った小学校の講堂ですね。そういうようにして再利用されてる建物もあります。そこで当然100周年の記念展示がありまして、おやじの作品とか、経歴とか全部展示して3か月間作品展をやりました。特殊なもんで、お寺や庫裡とか所謂、宮大工や寺大工とか特殊な設計もしたが、主に学校が多かった。民間も入れますと300以上仕上げてますね。



5. 播州清水寺の設計

そういう技術は、学校で習ったか自分でまた、事務所開いてから独学で勉強したかですね。そのうちの、大正6年に清水寺(きよみずでら)の清(し)水谷(みずだに)さんに親父のおばさんが嫁いだんで、加西のおばさんが津田甚二郎の家からこの家へ。長男の嫁に加西の内藤に嫁いで来たったんですね。浜路という家から清水(きよみず)さんの住職の奥さんに叔母が嫁いどったんです。そういう関係で自分の甥で建築の設計しとんやからということで、竹田先生に話したら一緒に勉強がてらやってくれたということで、竹田吾一君と一緒に設計したと。その時に本堂は竹田先生が設計されて、庫裡は親父が担当して設計したことを聞いてます。それは大正6年です、来てから3年ほどしてからの話ですね。そういう関係で竹田先生に師事したと書いてあるわけですね。お寺とかお宮とかは自分で勉強したんですかね。なかなか細かいとこまで教えてくれない、器用といいますか、自分で学校で習ったんか大工道具揃えて自分で水屋とかつくってましたからね。最近まで残ってました。手先が器用だったから建築家はある程度器用じゃないとね。不器用ではね図面一つ描くんでも、そういうところが好きだったんかね、そういうことです。

6. 親父の跡を継ぐのは当然

最近はなんか公共ものと言えば、競争入札して安かったらええと、だいたい官公庁で下地つくってね、設計、積算するだけやから面白くないですな、自分が好きにできませんもの、われわれの時代でも自分の好きなようにできよったからね。ところが今はもうだいたい骨組み作って、図面描けばね、入札してね、誰でも描けるようにして、せっかくの建築家の腕の見せようがないですな。公共もの、入札で談合だとかマスコミは書くし、そういう、時代が変わってきました。設計事務所を始めた頃、最初は4、5人でやってたかな。そこ狭いからということで洋館を建ててその2階で設計を始めるようになった。

子どもの時からね、親父の跡継ぐのは当然男一人やから、覚悟の上で、小学校の時から跡継ぎとして、手ほどきは図面描くのはなかったですけど、わりあい図画なんか好きやったから跡継いで小野小学校から高校へ行ったということです。

私のね正克という名前にはね、例えば6代目なんですけど、3代前私の親父が克雄、克雄と書いてヨシオと読むんですが、それから初代、2代、3代が正平(しょうへい)、正しい、平たい、正平で3代とも正平です、本家から分家させてもらってから、初代、2代、3代が内藤正平、私の爺さん、4代目になって初めて内藤万太郎、そういう名前になって、5代目の親父が克雄という名前で、私の正克というのは、代々続いた正平の正と私の親父の克をとって正克と名前を付けてもらった謂われがあるんですね。

7. 子どもの頃の思い出

私は、男一人の、小学校や保育園は福田村という、同じ福田村で加東郡福田村で久保木と古川があります。この二つは福田村で当然小学校は福田小学校、小野になったんは戦後、社町福田村は社町に入りまして、その時に久保木村と

その向こうに古川村があります。その二つは当然小野の経済関係に入っとるし、産業がそろばんの下請け工場が古川と久保木に沢山あったんですね。工場というよりも家内職がね。そこで久保木と古川は小野の方がいいという事で、社町に入っとんやけど分町しましてね、昭和30年頃か分町して小野市の方へ変わったんですね。だから今では小野市久保木町、向こうは古川町で小野市の中に入っとるんです。そういう経緯があったんですね。

それで小学校は社ですからもちろん福田小学校、福田小学校ってここから3キロほどありますかな。毎日当然歩いて通ったわけです。福田小学校は今は鉄筋になってます。その前は木造の2階建てこれも親父が設計したんですが、その2階建ての校舎が建ったのが私が小学校の3年生くらいですか。3・4年生ぐらいに建った。それまでは木造の潰れかかったような平屋の建物ですからね。1年生2年生3年生をそこで勉強しました。その時分の気候は寒かったですな。寒いというよりも一番印象に残ってるのは、冬になると机の中に硯ですな、ほとんど習字をしましたから、硯の水が凍ってましたからね。今はもう冷暖房、当時はストーブもないですから、だから寒い所で子どもたち勉強したなと思って。その代りよく鍛えられてるかな？

冬でも雪が20センチほど降ってましたね。雪が見られましたね当時は。それから田んぼの中に霜柱が立って、夏暑い歩いて、昔の子どもは強かったんかな。そういう時代に鍛えられてるから多少は抵抗力ができてるんですかね。それからいわゆる小学校が6年間、卒業して高等小学校に入りましたね。高等小学校、福田小学校の中に高等科というのがあって1年2年があったんですね、ほとんどの者が中学校いかんと高等1年と2年と、もちろん6年生で卒業してやめていく者もありますけど、半数くらいは高等小学校まで行ってました。6年生で卒業して中学校へ行くその時分は小野中学校しかありませんでしたね。小野中学に行ったのが昭和

10年、11年ですか。小野中学は当然、自動車もバスも何もないところですから、皆自転車で当時はアスファルトの道なんか無かったですから砂利道を通ったわけですね。ある時、真冬だったかね、中学校に通ってね。自転車で175号線、旧道がありますね。古川通って坂上って仰臥池の所通って旧県道ですか。それを冬のある時通った時にですね、ちょうどカーブのところで、昔は砂利道ですから、砂利のないとこ自転車が通るわけですか。向こうから魚屋がね、トロ箱という魚を入れる箱がありますよね。あれを積んだ魚屋がきたんですね。ところが道は広いのにこっち側だけ通るからそこだけ砂利がないから皆こっちを通るわけです。こちらは左側通行だからこう行きますわね。向こうは右通らないかんに左側きて、ちょうどすれ違いざまに自転車とトロ箱がひっかかったんですね。ちょうど池やったから池に飛び込みましてね。冬やったけども水が少なかったから、それでもこちらへまで浸かったかな。自転車の後ろに括ってるカバンもびしょ濡れ私自身もびしょ濡れで、魚屋のおじさんが引き揚げてくれて、いっぺん家に帰ろうと思ったんですけどそのまま行った。びしょ濡れやし学校の先生が職員室で、本も何もかもびしょ濡れやから全部干してくれてね、それが冬の一番の思い出です。私がどうして家に帰らなかったといいますのは私が小学校の3年生の時に6年生の卒業式に出たんですね。そしたら1年生2年生は狭いから出られへんけど3年生4年生5年生は卒業式に出るわけですね。そしたら優等賞、皆勤賞がもらえるんですね。優等賞は賢い人がもらうんで皆勤賞ってなんだろうと思ったら、皆勤賞は休まずに来たもんにあたるんだと聞きましてね、優等賞は無理やけど、皆勤賞は休まんで行ったらくれるんやったら一つがんばったろかと思って、そして4年生5年生6年生と頑張って皆勤賞3年間もらいましたね。この分だったら中学校いっても一つ頑張ったれと思って、中学校の1年の冬とんぶりがえったんです。今帰ったらまた

欠席になってしまうし、そのまま学校へ行って皆勤賞もろたろうと思って、1年生の冬に皆勤賞をもらって、また2年生も行けると思って2年生も皆勤賞、3年生4年生5年生と頑張ったら全部皆勤賞で、1日も休まんと、だから小学校の4・5・6・と1・2・3・4・5と8年間一日も休まずに行ったんですよ。今の元気な秘訣になったのかな。そんな経験があります。

8. 設計するために建築科へ

卒業後は昔神戸高等工業というて、今の神戸大学に入学しました。当時は3年制で、建築の高等工業はね、神戸と名古屋高等工業とそれから福井とそれくらいやったな。親父のあとを継がんといかんからね。神戸高等工業に幸い入学できて、神戸の時は明石に下宿して1年、2年3年は神戸でしたね。場所は西代の駅を降りた南側になります。一学年80名とってましたね、戦時中か、1クラス80名でしたね。80名と言っても実際70名ほどでしたけど。まだ戦争が始まっていませんでしたからね。昭和15年やから、あの時代は勤労奉仕も行ってなかったいい時でしたよ。もちろん戦地や戦中からの大佐からね、昭和16年の途中で始まったんやな、もちろん軍事教練をずっとしてましたよ。中学校の時から、必須科目で習うことがありました。そういう時代やったから、神戸高等工業時分でも軍服着て、電気と機械に軍服着た人が来よったね。将校が来てました。研究生みたいな形で来てましたね。そういう時代でした。大阪師団、たぶん大阪へんから来よったんですね軍服着た研究生みたいな形で電気と機械科にはきてましたね。そういう時代でしたね。設計するために建築科行つとるわけです。ところが設計というか建築科を出たものは、半分そうですね、70パーセントぐらいまではゼネコン、建設会社就職してましたね。あと30パーセントは設計事務所、あとは自分で始めるとかですね。



親父が学校出てすぐに設計できないから、現場で修行してこい。そこで、就職したのが中嶋組ゆうて兵庫県ではゼネコンで一番トップやったんです。もう潰れてしまいましたけども、中嶋組というのがいいからという事でそこへはいったんです。中嶋組に就職してその会社がね三宮の阪急会館、阪急会館の北の道おいて中嶋組の本社がありました。そこへ就職してその時に、戦中ですから現場行けということで、初めて行った現場が鶴野飛行場の格納庫、三宮に居る時には、格納庫の設計しました。木造ですけどね。木造のスパークが30mある、それで現場近くだから行けということで鶴野の現場にやらされました。その時私んところから鶴野で近いですから自転車で現場へ通ってましたね。木造の建物です。その建物はほとんど潰れてしまっただけで今は何もないです。そのひと棟が現在残ってます。移築されて、それが姫路の京口駅になります。京口駅の手前、市川沿いに建設会社が倉庫にしています。もらって帰ったんやろね。そのひと棟だけ残ってます。あのときには5棟か6

棟を建てたんですけどね。格納庫やからその一つだけ持って帰って残しとるんですな。鉄骨がなかった時代ですから、当然木造でのトラスでやっとなんてですな。運送会社、そやっとなんて運送会社や。それだけですな、ひと棟残ってるのは、珍しい建物です。

9. 戦争の思い出

青野原演習場がありましたやろ。昔は関西でも有名な演習場だったんですな。それでね小学校3年生の時やったかな、姫路師団が秋になるといつも演習しよったんです。その時の師団長が館川芳治中将で師団に私はよう見学に行っていましたわ。で私が通っていた福田小学校から西へ2キロの所で姫路師団がいつも演習しよったんですわ。師団長の館川芳治中将が何で有名かということ、当時、少年倶楽部といって小学校の子どもが読む雑誌といったら少年倶楽部しかなかった。少年倶楽部と少女倶楽部、少年倶楽部は皆が読むのではなしに、ある程度裕福な家の息子が読む雑誌で、その少年倶楽部に山中峯太郎の敵中横断300里という軍事小説が載っていた。日露戦争の時に満州を舞台にしたロシア戦争の時の斥候グループを話題にした実話小説だったんですな。その一番のヒロインが館川中尉（当時）で、兵隊を5、6人つれて敵中深く偵察に行ってた。その物語がずっと毎号載っていて、皆で回し読みしてたんです。そのヒロインが館川芳治中尉だったんで、その小説のヒロインが現実に師団長になって青野原にきてるという事で先生はもちろんのこと皆で見に行ったんですな。現実に小説の中の館川中尉を目のあたりにしたのですが、その時はよく太って頭もちょっと薄くなったような師団長やったですな。昔のそれこそ馬に乗って走り回ってた面影が全然なかったんですけども、そういう時代でしたな。小学校の時に満州事変が始まって。

真珠湾攻撃した時一方的にパーっとやって、その後ずっとマレー沖海戦か、あの時にやめと

けばよかったな。アメリカが日本もなかなか抵抗するなと怯んだ時があったんですね。あの時にやめとったらある程度の条件付けて、どっちも収める気になってたから止めとけばよかった。ミッドウェイ海戦も負けてちょっと遅かったですね。新聞も勝つてると良いように良いように、悪いこと書かんと良いように書いてましたからね。その時分が悪かったですね。マイナスでした日本にとってはね。マレー沖海戦ではあとやめとったらこんな事態にはならなかったでしょうね。欲がでるしね。勝つし軍部自身が今更引けない意地があった。

私自身が第2乙種やから、相当背が小さかったし、大概第2乙種まで招集がくる、日本があかんとしたんですね。第2乙種までが現役ですが、第2乙種まで召集されて「あかな」と思ったんですね。昭和18年くらいである程度犠牲払ってでもやめとったら今みたいなことにとられるようなことはなかった。ところがやっぱりなかなか軍部が意地でもということですね。第一食べるもんはないし、油はないし。

われわれ田舎はどうにか食べてましたね。町の方は代用食で、配給で当時、米が何ぼ、一日に1人2合かな良いときで、今みたいに食べるもん沢山あればね、その当時食べるもんないから。何もかもが配給やったな。タオル一つでも配給やったね、医療切符、だからシャツとかそんなもんまで配給やったな。昭和17.8年ぐらまでは良かったんですね、どうにか、19年になつたらもうだめでしたな。硫黄島とかサイパンとかから飛んできよるからね。完全に負け戦。わかってからいっとるんやから、絶対負けるとは言わなかったな。

10. 東京大空襲で間一髪の命拾い

無理に戦争のことは説明、教えんでもいいけども基本的な国を大事にするとか愛国とかね、そういうことについてははっきりともしっかりと教えるべきやね。何も軍国心を教えるんじゃないですよ。日本という国をいかに大事にするかと

いうことを、さきほど言った道徳教育をもっとしなきゃいけませんな。漢字の基本ができてないね。今の学校教えてますが肝心の人間としての基本的な事を教えてない。だから親が子を殺したり子が親を殺したりする。そういうことが一番基本であると教えてないですね。教える先生自体も教育受けてないから教えないんか知らんけども、やはり今の時代はいかに人間としての人としての道をもっと教えないかん。私からすれば非常に残念なこと。

私がね、東京の幹部候補生の学校が今は板橋区になってますな、そこに幹部候補生学校がありましてね、そこへ入学したわけですね、あちこちにありましたけど、私は神戸という関係でその幹部候補生学校に入学しました。その時神戸高等工業の同級生で4人ほど行ってましたね。そこで半年間教育受けるわけです。教育を受けてから各師団へ配属になる。そこでもういっぺん試験があるんです、甲種乙種のね。甲種に合格すると士官、乙種になると下士官にしかないと、幸い合格し士官になりました。

毎晩は数機ほどしかきませんけども脅しに来るだけで、来てもバラバラしか来ない。日本の記念日ですかね。陸軍記念日とか海軍記念日とかそ天長節とか良く知っとなです。その日の晩には必ず来りましたね。最初来たのは3月10日の陸軍記念日に来ました。その時学校におった時分やから、300機きてそれから焼夷弾を落とすんです、焼夷弾はね、束にして落とすんですね。100個ほどあるかな、弾が花火みたいなもんです。3月10日の時には下町がやられていますね。東京の3分の1がやられましたな。毎晩来ました。来なかった日はないですね。昼来る時にはね、高いところ飛んで来るんです。日本の飛行機が逆にやっと追いついてもすぐ落とされてしまう。よく見ました。中にはね、体当たりしたやつも見ましたよ。向うは爆撃機でっしゃろ、いくら戦闘機がいても跳ね返してしまう。特攻隊の体当たり。向こうにしたら何も堪えないわけですな。東京師団に配属になっ

てから5月27日が海軍記念日で、ちょうど土曜日でしたわ。この日は来るなと思ったら案の定きましたわ。東京師団の私が週番士官の番が回ってきて、ちょうど27日の晩が当たってね。伝令1人兵隊1人連れて見て回ったですね。その時に焼夷弾の爆撃を受けてその一発が雨あられに落ちてくる中、私は防空壕に頭を突っ込んでしまったんですが、伝令は5,6メートル離れてましたから右足やったかな、直撃を受けまして包帯もなかったんでゲートルで縛ってすぐ近くの野戦病院というか診療所に担ぎ込んで治療したんですけども、骨をやられてるんで切らなくてはいかんという事でしたね。膝から下を切ってしまったですね。私は間一髪で助かった。伝令が身代わりになってくれたのですね。

11. 設計の仕事

親父の後を継いで事務所をかまえたわけですが、親父は親父としての時代を生きて、親父自身はよき時代に生きたと思います。今親父が生きていたら、設計事務所やめとったと思いますわ。

設計というのはひとつの芸術で自分の趣味半分、金儲け半分ぐらいに考えんと、金儲けやったら、アホみたいに設計なんかせんとぼろ儲けしとったらええという時でしたが、親父も一緒に、私自身も一緒に、やはり設計というのはひとつの技術やし、ある程度の芸術性もあるのですね。やはりその自分の腕をいかに現物に生かそうかというのがひとつの設計であると私は思うんですよ。図面書くとね、図面は100分の1とか200分の1の大きさで書くわけです。市場へ出るとそれが100倍、200倍になる。現物に立体的に出来るわけです。絵描きは絵を描いたらそのままいいが、設計者が図面を書くと現物にそれが地上に出来上がる。それひとつの非常な魅力ですね。私はそれでね設計言うのは非常に芸術性があると、そのかわり責任がありますわな。建物やから、必ず人が住むわけで、彫刻のように命に関係ないものじゃ

なしに、必ず建物の中に人間が住むということは人間の命を預かっとるわけですから。自身建物とともに責任がある。学校やったら、何百人という子供が学校の中で勉強したりするし、どんな建物でも何百人という人が生活するわけやから、責任がある。責任があるかわりに自分の思ったとおりのものが出来上がる。非常に魅力がある。いい職業だなあと感心しとったわけです。

12. 戦後の生活

7, 8年は食べものを作りながら設計してましたからね。昭和26年に新制中学の学区制ができた。小学校だけやったんが、小学校と中学校ができ、たちまちその時に校舎の設計の仕事が出てきた。その当時は木造で、小学校に増築して中学校を作るところが多かった。小学校の中に1棟を増築することが多かった。そのうち、建てる場所を探してから中学校を建てるようになった。一時(いつとき)でしたから、夜も寝ないで設計した時期がありましたね。だんだんと30年くらいになってきたら、ぼちぼち鉄筋が出来てきた。一番最初に小野中学がこの辺では鉄筋で校舎を建てた。鉄筋を見に行ったのは、町長やら、町会議員やらと一緒に芦屋の山手教会に視察に行きました。

あそこが鉄筋で見に行こうかいうて行きました。これはいいということで小野中学を鉄筋で造ったんです。

その時分は生コンはないんです。コンクリートはない。セメント袋があって現場で砂と砂利、トラックがなかったから、馬力で運んできて砂とバラスとセメントをまぜて、ミキサーで練ってリフトでね。揚げてもらった。リフトで2階、3階とあ揚げたやつを一輪車で持って行って流す。それが初めての鉄筋。それ以後鉄筋が増えてきて、木造が無くなって、鉄筋の校舎になった。また鉄筋の校舎は建て替えています。

終戦20年に帰って来て、21年の春に結婚した。早かったですよ。

結婚した時は食べていかなあかんから、いろんなことしてましたよ。稲刈りしたりね。23歳で結婚したからね。いろんな経験をした23年間ですね。子供は23年生まれです。

私はいろんな役をしとったから。防衛協会はね。自衛隊があるんでね。自衛隊に協力するということで、防衛協会があるんです。もう10年かな。自衛隊の後援組織です。講演会にもまわるんですよ。加古川の本線から西側はみんな自衛隊の恩恵があるんですよ。それに対しての協力隊です。

瑞宝章は県の建築士会の推薦です。70歳以上の人やから、私は69歳の時に申請しました。

勳5等とかいろんなものがありますがようわからん。親父も勳5等をもってます。これは勝ち負けはないですから。

設計事務所は今一人でも事務所を開いていますね。一匹狼でも資格は同じ。うちでもやめた者が事務所をやってますけれどもね。

いつも言うんですが、昔のタバコ屋より、設計事務所が多いな、言うてます。ある程度成功したものを組織化したものに許可をおろしたほうがいいのではと思いますね。そういう点で逆にマイナスですね。

13. これからの地域に望むこと

建てもの自身が、消耗品になっていますね。傷みもないのにつぶしてまた建て替える。それは各自自治体の長が悪いですね。市長にしたって自分の代に早よう建物を建て替えたら自分のひとつの手柄になるように十分使える建物でも、つぶしてしまってまた建て替えてる。ひとつの消耗品。外国では何百年も前のものがまだ残って使っている。ヨーロッパへ行くとそれこそ千何百年経ってますとか、建物がそのまま残っていて使ってますわね。玄関だけではなしに町並みに溶け込んでいる。ぜんぜん建物に対する考えが外国と日本では違います。古いほうが価値が高いと反映されていますね。日本は原価償却。

歴史として残すものは極力残して欲しい。建物だけではなしに文化的なものは地域に残して欲しい。新しいものもよろしいが。残すべきものは大事に残して欲しい。

いわゆる建物として、価値の無いものは当然抹消していいのですが、ある程度価値のあるものは極力残して欲しい。私はいつも周囲にも言うんですけども、設計する時は、やはり建てる人の身になれと。それから使う人の身になれ。それを頭において設計せいと。

建てる人というのは、時分の金を出して建てる人もいるし、市費、町費を使って建てる人がいる。いろいろやけど。そういう人はかなりの犠牲を払って立てているんやから、建てる人の身になって自分は設計せいと言っている。今度は住む人、使う人の身になって設計せい。建物は人が住んで使うんやから、使いやすいように設計せい。と言っている。若いもんは使い勝手の悪いもんを設計してますけどね。

